

広がるか？

「お惣菜もリユース容器」

最近、デパ地下でお惣菜をリユース容器で販売する試みや、持参の容器でのお買い物を推奨する商店街など、飲料容器以外のリユース推進の動きが注目されています。果たして、こうした取組みは、広がるのでしょうか？

デパ地下でリユース容器のお惣菜

グルメ食品が並ぶ高島屋デパートの地下食品売り場。その中にある全国チェーンの惣菜店「RF1(アール・エフ・ワン)」で、2月18日から3月10日にかけて、陶器の皿に入ったグラタンとドリアが販売されました。「おかえりプレート」と名づけられたこの商品、家で食べた後、皿を店に返却すると、「プレゼント」のお惣菜がもらえるというしくみ。

そこで、早速、日本橋高島屋でおかえりプレートに入った「フランス風じゃがいもグラタン(840円)」を購入してみました。商品を渡されると、ずっしりと重いことにびっくり。家で温めて食したところ大変おいしかったのですが、気になったので容器の重さを量ってみたところ、400gでした。これをまた日本橋まで返しに行くのは、かなり億劫でしたが、再び高島屋へ。容器を返却したところ、キッシュ(315円)を1つプレゼントされました。

この取組みは、環境省のモデル事業として、京都エコ容器・包装・商品推進協議会が高島屋やRF1の協力のもとに実施したものです。報告によると、容器の返却率は、日本橋、玉川、京都の3店舗のいずれも2割程度でした。同協議会の浅利美鈴京都大学准教授によると、今回は、容器が重かったことなどが、返却率にも影響し、LCA調査でもリユースの優位性を示すには厳しい結果となったそうです。容器を返却したら、他の惣菜をプレゼントするのではなく、デポジットを返金することも考えられたはずですが、今回は短期間の試みだったためプレゼント

にしたそうです。しかし、なんとか持ち帰り容器のごみを減らしたいと考える企業の真剣な姿勢は評価できます。デパ地下という場で、消費者と企業が一緒によい方法を模索していくための貴重な一歩になったのではないのでしょうか。



容器を返却したら「キャッシュ」でなく「キッシュ」がもらえます

顔なじみだからできる「通い容器」

一方、地域の商店街では、お客さんが持参した容器に商品を入れてくれる、「通い容器」の取組みも見られます。立川市の羽衣商店街では、2003年から、「容器を持ってお買い物」運動を行っています。これは、立川市商店街新興組合連合会の女性部会が、環境の取組みの一環として始めたもので、協力店で持参した容器に入れてもらってトレーなどのごみの削減をすると、商店街のポイント券「ハローチップ」が2倍もらえるなどの特典があります。

お茶の「狭山園」では、お茶筒を持参すると好みのお茶を量り売りで入れてくれ、食品店「立川商店」では、お客さんが持参したタッパーにお惣菜やおはぎを入れてくれます。坂本屋酒店では、味噌を量り売りで持参した容器に入れてくれ、コーヒー豆店「珈琲夢職人」では、好みの豆をその場で挽いて持参の缶などに入れてくれます。この取組みを始めた狭山園の女将さん、池谷和子さんは、「信頼関係があるからこそできる」と言います。買うほうにとって、容器の衛生管理が自己責任となるのはもちろん、味や香りを保ってほしいというこだわりを持つお店では、そうでない入れ物を持ってきたお客さんに容赦なく注意します。「顔なじみだから言えるのよ」。

また、商店街の米屋「米のはごろも」では、「通い袋」で米を配達しています。お客さんの名前が入った袋に注文の米を入れて配達し、前回配達に使った袋を引き取り、繰り返し使用します。ご主人は、羽衣商店街の取組みを、「昔からやってることなんだけどね。最近はそれが、『エコ』とか言ってもてはやされるようになったんだから、なんだかおかしいねえ」と淡々としていました。

リユースの推進は、環境負荷の低減をめざすだけでなく、社会生活における信頼関係をつくる、あるいは取り戻すことでもあるのです。



持参した容器に味噌を入れてもらいました

各地でブーム、下取りセール

各地のスーパーや百貨店、家電量販店で、「下取りセール」がブームとなっています。購入額に応じて不用品を現金で買い取ってもらえたり、不用品を持ち込むと特定の商品に使える割引券がもらえたり、というシステムです。

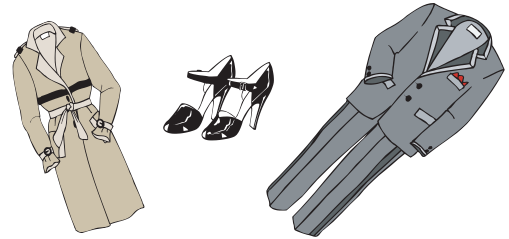
販売店にとっての目的は、景気の冷え込みで落ち込んだ消費を喚起すること、新品への買い替えを促進することです。消費者にとっても、家に眠る不用品を処分できる上に割引されるのですから点、魅力的に見えます。しかし、消費の後押しで、かえってごみを増やしてしまわないでしょうか。また下取りで大量に集まった品物はどう処理されているのでしょうか。

イトーヨーカドーでは、4000円以上買い物をした人を対象に、衣類や日用品60点を、1点500円で現金下取りするセールを2008年末から7回実施しました。全国合計で、328万点もの不用品が持ち込まれたそうです。イトーヨーカドーによると、できる限りリユース、リサイクルしているとのこと。衣料品できれいなものはNPO法人日本救援衣料センター（JRCC）を通じて難民などに届けられ、その他は断熱材などにリサイク

ル、フライパンなどはくず鉄としてリサイクルしているそうです。

西武百貨店では、5月に1週間行った婦人靴・鞆の下取りセールで約15万点を回収し、そのうちの一部、約18000点をザンビアに寄贈したそうです。こちらは、下取り品を持っていくと婦人靴・鞆の割引券がもらえるしくみです。

これだけ大々的に宣伝され、広がっているだけに、販売店には、引き取った品の処分の際に行える限り環境負荷のかからない方法を選び、リサイクル・処理状況に関する情報公開をお願いしたいものです。消費者としては、せっかく新しく買った商品もすぐたんすの肥やしになってしまうようなライフスタイルを見直す機会にしたいですね。



News Flash

コンビニ弁当・値引き販売の制限は不当

【5月/全国】消費期限の近づいた弁当などの値引き販売を、コンビニ本部がフランチャイズ店に対して不当に制限しているとして、公正取引委員会がコンビニ最大手のセブンイレブン・ジャパン本部の調査を行っていたことが、今年2月に判明し、5月末、同委員会は、独占禁止法違反(優越的地位の乱用)を認定する方針を固めました。

この流れを受け、3月ごろから各地のコンビニで値引き販売が広がっています。値引き販売によって売上は減るものの、廃棄コストの削減にもつながり、利益は逆に増えているといえます。コンビニ1店舗あたり1日に40～50個も、まだ食べられる弁当が廃棄されている現状において、今回の公正取引委員会の判断は、廃棄削減に大きな効果をもたらさそうです。

携帯電話の回収・リサイクルキャンペーン開始

【6月/全国】6月3日、使用済み携帯電話回収促進キャンペーンが環境省、経済産業省、地方自治体、通信事業者、メーカー等の連携により始まりました。

携帯電話やPHSには、金属やレアメタルが天然資源に比べ高濃度で含有されていますが、現在、自主回収による回収率は約14%にすぎません。今後、回収義務化も検討されますが、まずはユーザーの理解を深めるためのキャンペーン、回収率アップにつながるか注目です。

京都市役所に脱・使い捨てのコンビニ

【6月/京都】京都市と環境市民団体「京都2Rシステムプロジェクト」は共同で、市役所内にゴミ減量や省エネを実践する「エココンビニ みやこスタイル」を開設し、6月下旬から3ヶ月間営業します。飲料は専用サーバーを置き、1杯(250ml)50円で販売します。缶やペットボトル入りの飲料は扱わない、レジ袋、割りばしの配布・販売も行わないなど、「コンビニ」のイメージを変える取組みで、地球温暖化防止への効果も調査されます。



京都市長がマイボトル飲料サーバーをいち早く体験

From FoE Japan

「脱・使い捨てNEWS」メールマガジンにご登録ください！

紙の使用量削減のため、基本的にPDFファイルをウェブ上にアップし、メールマガジンで発行をお知らせしています。

登録はこちらから

<http://www.foejapan.org/lifestyle/gomi/NEWS/index.html>

このニュースをより多くの方に購読いただくため、メルマガ、メーリングリスト等でご紹介いただけましたら幸いです。

発行 国際環境NGO FoE Japan www.foejapan.org
脱・使い捨て社会プロジェクト

インターン・ボランティア募集

脱・使い捨て社会プロジェクトをお手伝いいただけるインターン・ボランティアの方を募集しています。

【業務内容】

国内外の脱・使い捨ての取組みに関する調査・研究、および付随する業務

【勤務条件】

曜日、時間帯はご相談に応じます。定期的に来ていただけるインターンの方には、交通費を支給します。

tsukaisutezero@foejapan.org

〒171-0014 東京都豊島区池袋3-30-8 みらい館大明1F